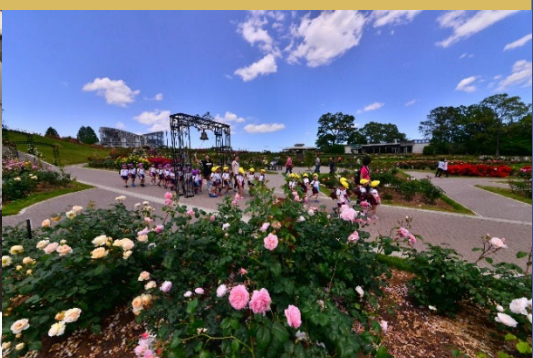
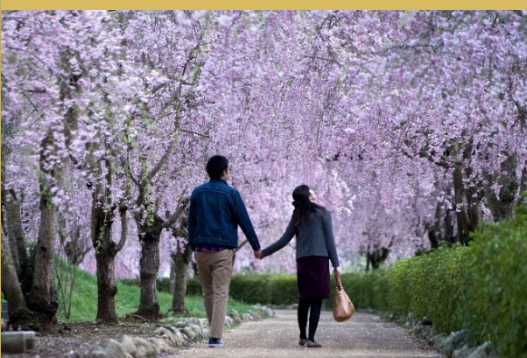




第2次石岡市観光振興計画

市民とともにつくる
常陸国の歴史・里山を体感できるまち
いしおか

概要版



石岡市
平成31年3月

計画策定の背景と方向性

■ 計画策定の目的

近年、国では観光を成長戦略の大きな柱ととらえ、各政策に取り組んでおり、茨城県でも、2019（平成31）年の「いきいき茨城ゆめ国体」や2020年の「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」開催を見据え、経済成長の一翼を担えるよう観光産業の「稼ぐ力」を一層高めていくこととしています。

このような背景を踏まえ、これからの本市の観光振興は、多くの人々と多様に連携し、豊富な地域資源を磨き、活用し、継承していく取組を進めていくことが重要です。そこで、市民が一体となった“観光によるまちづくり”の指針として、本計画を策定します。

■ 本計画の計画期間

本計画の計画期間は、2019（平成31）年度から2028年度までの10年間とします。

2019（平成31）年度から2023年度までの5年間を前期期間、2024年度から2028年度までの5年間を後期期間とし、取り巻く環境の変化などに応じた見直しを行います。

■ 石岡市の観光の課題

課題① 観光地域としての魅力向上

- ・本市の様々な観光資源を更に磨き上げ、有効活用し、観光地域としての魅力の向上や石岡ブランドの確立
- ・多種多様なニーズに対応できる観光地域を形成していくこと
- ・市内に点在する観光資源をつなぎ、面的な広がりを構築するとともに、市内を結ぶインフラや滞在拠点を整備し、市内での滞在時間の延伸を図り、観光客の満足度を高め、再来訪につなげていくこと

課題② 来訪のきっかけとなる効果的な情報発信の推進

- ・“石岡市”の認知を高め、観光地として選ばれるために、ターゲットに合わせた媒体による情報発信の強化
- ・ターゲットに応じて、本市の魅力的なストーリーを効果的にPRしていくこと
- ・訪日外国人等を含む観光客を本市に誘客するために、他自治体とも連携し、効果的な情報発信を図ること

課題③ 広域的なネットワークの構築

- ・観光消費額の向上のため、周遊等により市内滞在時間を延ばす取組
- ・個々の観光資源の魅力を相乗させ、エリアの魅力を高めていくために、市域を越えた広域的な連携
- ・市内外への回遊性を高めていくための環境づくり

課題④ 持続的な観光産業の推進に向けた観光の担い手・支え手の確保

- ・自治体だけではなく、様々な団体・組織が連携し、観光産業の担い手・支え手を確保すること
- ・観光事業者だけではなく、多様な関係者が協働した、一体的な観光地域づくりの推進
- ・観光地域づくりの取組により、経済波及を生み出し、持続可能な観光産業を推進すること

石岡市観光振興計画の目指す姿

■ 将来像

市民とともにつくる常陸国の歴史・里山を体感できるまち いしおか

～常陸国の歴史・里山を体感できるまち～

数々の史跡や近代建築物が残る中心市街地、里山の豊かな自然環境が残る八郷地区、国内第2位の面積を誇る霞ヶ浦を臨む高浜地区など、本市は特色の異なる地域に多様な資源を有しています。これら数多くの資源を有効に活用し、市民と協力することにより、『いしおかならでは』の空間を創出し、観て、体感して楽しめる観光のまちづくりを目指します。



■ 基本理念

常世の国との出会いを通して、訪れる人々に喜びと感動と満足を提供する

本市には、1300年を誇る常陸国の歴史や、常陸国風土記で「常世の国（理想郷）」に例えられた自然の恵みなど、魅力的な地域資源が数多く存在しています。これらの地域資源は、市民の誇りであり、国の内外からの来訪者にも誇れるものです。

これからの本市の観光振興においては、「常世の国」と称された豊かな自然と、そこに暮らす人々が伝える歴史・文化との出会いを通して、本市を訪れる人々に喜びや感動、そして満足を感じてもらうことを目指していきます。

■ 観光振興の基本方針

魅力ある観光地域づくり

1

観光事業者をはじめとする市民が本市に誇りを持ち、おもてなしの心で来訪者を迎えることにより、「訪れてよかった」「もう一度来たい」と思ってもらえるような観光地域づくりを目指していきます。

戦略的な情報発信

2

本市の認知度向上を図るとともに、「一度は行ってみたい」と思ってもらえるような情報発信を行っていきます。

周遊観光の推進

3

本市及びその周辺にある筑波山や霞ヶ浦、茨城空港などの地域資源を活用し、広域連携による周遊観光の促進を図ります。また、市内の観光資源をつなぐ回遊ルートを確立し、市内観光の魅力度アップを図ります。

持続可能な観光産業の育成

4

将来にわたって観光産業を維持していくために、後継者の育成のほか、稼げる観光産業の振興を図ります。また、観光事業者や行政に限らず、市民参加による観光振興を推進します。

施策体系

基本方針 1 魅力ある観光地域づくり

【目標数値】

指標	現状値	2023 年	2028 年
観光入込客数	1,433,000 人	1,750,000 人	1,950,000 人
観光客の満足度（満足）※	71.2%	73.0%	75.0%

※観光客の満足度：来訪者アンケート調査より、「今回の観光・旅行全体の満足度」の設問における「とても満足した」「満足した」「まあ満足した」と回答した割合

施策	取組
(1)観光資源の魅力向上による石岡ブランドの確立	①地域の特性を活かした観光（モノ・コト）の促進 ②観光資源などの保護と活用
(2)多様な旅行形態への対応	①多様なニーズに応えられる観光資源の発掘・活用 ②多様なニーズに沿った観光資源の連携
(3)ユニバーサルデザインを取り入れた受入環境の整備	①既存施設の効果的な利活用 ②宿泊施設の整備 ③案内表示等の整備・充実 ④二次交通の充実 ⑤観光地域としての景観の保全

基本方針 2 戦略的な情報発信

【目標数値】

指標	現状値	2023 年	2028 年
発信情報の満足度（満足）※	—	70.0%	80.0%

※発信情報の満足度：来訪者アンケート調査より、本市が発信した情報に満足した割合

施策	取組
(1)媒体の特性を活かした効果的な PR 活動	①ターゲットに応じた情報発信手法の構築
(2)ターゲットとなる地域や旅行者の特性を重視した情報発信	①海外向け情報発信の強化 ②テーマ別情報発信の強化
(3)他の自治体と連携した誘客の促進	①茨城県や近隣市町村と連携した観光 PR の実施 ②人気スポットと連携した観光 PR の実施

<重点プロジェクト> インバウンドの受入環境の充実

基本方針 1 魅力ある観光地域づくり

- ◆英語圏だけでなくアジア圏から来訪者を意識した、案内表示などの多言語化を進めます。
- ◆外国人向けの二次交通利用ガイドなどを作成します

基本方針 2 戦略的な情報発信

- ◆アジア圏特有の SNS 環境などを考慮した情報発信を行います。
- ◆国と地域別に、旅行者が興味を持つポイントに注目した内容のパンフレットなどを作成します。

基本方針 3 周遊観光の推進

【目標数値】

指標	現状値	2023 年	2028 年
宿泊者の割合※	7.8%	15.0%	20.0%

※宿泊者の割合：来訪者アンケート調査より、本市での滞在時間における宿泊者の割合

施策	取組
(1)周遊観光ルートの開発	①テーマに沿った周遊ルートの開発 ②観光地域のネットワーク化の推進
(2)茨城県や周辺自治体との連携強化	①筑波山地域ジオパーク推進協議会等との連携強化 ②広域観光案内機能の強化
(3)周遊できる環境づくり	①交通事業者との連携強化 ②自転車等による市内回遊の促進

基本方針 4 持続可能な観光産業の育成

【目標数値】

指標	現状値	2023 年	2028 年
一人当たりの観光消費額（日帰り）※	4,099 円	4,500 円	5,000 円
一人当たりの観光消費額（宿泊）※	8,400 円	9,500 円	10,500 円

※一人当たりの観光消費額：来訪者アンケート調査より、本市での利用総額の平均額（日帰り／宿泊）

施策	取組
(1)担い手の育成	①体験・交流を通じた石岡ファンづくりの推進 ②新たな担い手育成の強化 ③市内事業者間の連携強化 ④市民や子どもの誇りや郷土愛の醸成
(2)観光地域づくりの推進体制の構築	①官民連携による推進体制の構築 ②行政内の体制の連携強化 ③ボランティアの活用と連携強化
(3)持続可能な観光産業の推進	①継続的なマーケティング調査の実施・分析 ②経済波及効果を生み出す他業種連携の推進

基本方針 3 周遊観光の推進

- ◆アジア圏を中心とした外国人の嗜好に合わせた周遊ルートを開発します。
- ◆外国人観光客に人気のスポットと連携した周遊ルートを開発します。

基本方針 4 持続可能な観光産業の育成

- ◆インバウンド向けのおもてなし研修を実施します。
- ◆庁内を横断したインバウンド対策を実施します。

ロードマップと実施主体

取組	ロードマップ			実施主体		
	短期	中期	長期	市民・事業者	団体	自治体
1-(1)-① 地域の特性を活かした観光（モノ・コト）の促進	→	→	→	◎	○	◎
1-(1)-② 観光資源などの保護と活用	→	→	→	○	◎	◎
1-(2)-① 多様なニーズに応えられる観光資源の発掘・活用	→	→	→	○	○	◎
1-(2)-② 多様なニーズに沿った観光資源の連携	→	→	→	◎	○	◎
1-(3)-① 既存施設の効果的な利活用	→	→	→	◎	○	◎
1-(3)-② 宿泊施設の整備	→	→	→	◎	○	◎
1-(3)-③ 案内表示等の整備・充実	→	→	→	○	○	◎
1-(3)-④ 二次交通の充実	→	→	→	◎	○	◎
1-(3)-⑤ 観光地域としての景観の保全	→	→	→	◎	○	◎
2-(1)-① ターゲットに応じた情報発信手法の構築	→	→	→	○	◎	◎
2-(2)-① 海外向けの情報発信の強化	→	→	→	◎	○	◎
2-(2)-② テーマ別情報発信の強化	→	→	→	◎	○	◎
2-(3)-① 茨城県や近隣市町村と連携した観光 PR の実施	→	→	→	○	◎	◎
2-(3)-② 人気スポットと連携した観光 PR の実施	→	→	→	◎	○	◎
3-(1)-① テーマに沿った周遊ルートの開発	→	→	→	○	○	◎
3-(1)-② 観光地域のネットワーク化の推進	→	→	→	◎	○	◎
3-(2)-① 筑波山地域ジオパーク推進協議会等との連携強化	→	→	→	○	◎	◎
3-(2)-② 広域観光案内機能の強化	→	→	→	○	◎	◎
3-(3)-① 交通事業者との連携強化	→	→	→	◎	○	◎
3-(3)-② 自転車等による市内回遊の促進	→	→	→	◎	○	◎
4-(1)-① 体験・交流を通じた石岡ファンづくりの推進	→	→	→	◎	○	◎
4-(1)-② 新たな担い手育成の強化	→	→	→	○	◎	◎
4-(1)-③ 市内事業者間の連携強化	→	→	→	◎	○	○
4-(1)-④ 市民や子どもの誇りや郷土愛の醸成	→	→	→	◎	○	◎
4-(2)-① 官民連携による推進体制の構築	→	→	→	○	◎	◎
4-(2)-② 行政内の体制の連携強化	→	→	→			◎
4-(2)-③ ボランティアの活用と連携強化	→	→	→	◎	○	◎
4-(3)-① 継続的なマーケティング調査の実施・分析	→	→	→	○	◎	◎
4-(3)-② 経済波及効果を生み出す他産業連携の推進	→	→	→	○	◎	○

<ロードマップ>

実施期間：→ 継続期間：→

<実施主体>

市民・事業者	市民、自治会、宿泊・観光施設、商店、飲食店舗、農業者など
観光関連団体	石岡市観光協会、石岡市やさ観光果樹組合など
行政	経済部観光課、関係各課、教育委員会など

※ ◎：主体的に実施 ○：協力・連携・支援

計画の推進に向けて

■ 推進体制の構築

本計画の推進にあたっては、行政、市民、観光事業者等が石岡市の将来像を共有し、それぞれの役割のもと、官民協働と地域連携を意識し、「市民や事業者」「観光関連団体」「自治体としての石岡市」が協力し、“オール石岡”を構築していきます。



■ 進捗管理

各取組の進捗状況や目標達成状況等を客観的に評価する仕組みを構築するとともに、市民や事業者の声を把握しながら、PDCA サイクルのもと、本計画の進捗評価及び進捗管理を行っていきます。



本計画の進捗管理については、学識有識者や観光事業者、各種団体等で構成する会議「(仮称) 石岡市観光振興推進委員会」にて行うこととします。本会議は、毎年1回以上開催し、本計画の進捗管理及び評価を行います。

